

放射線科だより



令和5年11月24日
診療放射線科 畑田 瞬

《冠動脈疾患(狭心症と急性心筋梗塞)》

冠動脈疾患とは、心臓の筋肉に栄養(酸素)を運ぶ冠動脈が、動脈硬化などによって細くなったり、詰まった状態を指します。**急性心筋梗塞**(冠動脈が詰まった状態)は日本人の3大死因の1つに数えられています。生活習慣が大きく影響し、予防/早期発見⇒治療を行うことが非常に重要となってきます。



【狭心症】

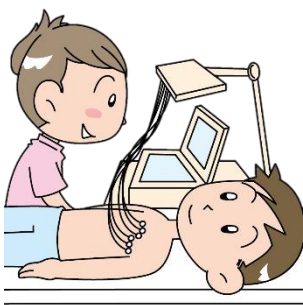
冠動脈は細くなっていますが、血流は途絶えていないため安静時には症状は出にくく、歩行や階段昇降などの労作時に胸が締め付けられる感じや圧迫感を生じ**30分程度で軽快**することがほとんどです。

【急性心筋梗塞】

冠動脈が完全に閉塞してしまった状態で、心筋は壊死し即座に生命活動を脅かします。狭心症より強く激しい痛みが特徴で、冷や汗や吐き気、恐怖感を伴うことが多いです。症状は**1時間以上続く**事がほとんどです。心筋梗塞を発症した場合、一刻も早く冠動脈の閉塞を解除してあげないと死に至ります。

・検査/診断

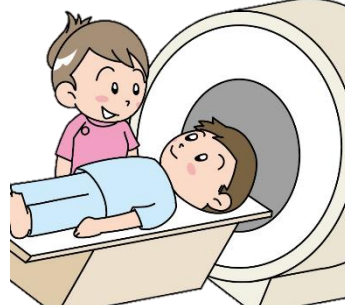
医師による診察と心電図/心エコー検査で、ほとんどの場合は診断可能です。必要に応じ、X線CT検査や血管造影検査も行われます。



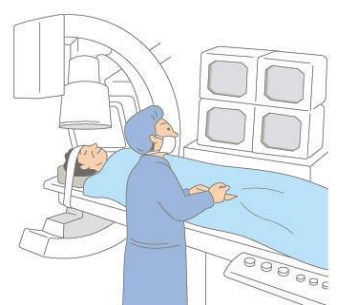
▲ 心電図検査



▲ エコー検査



▲ X線CT検査



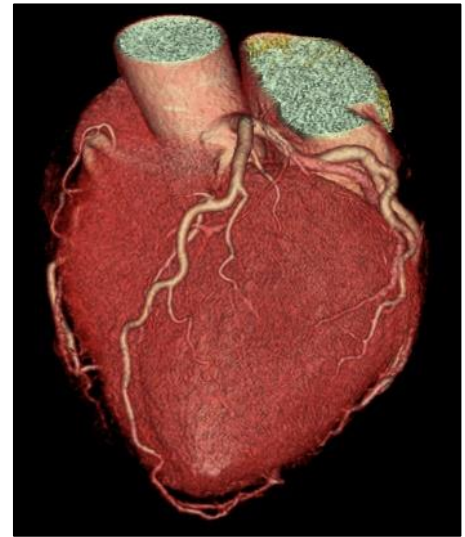
▲ 血管造影検査

・治療

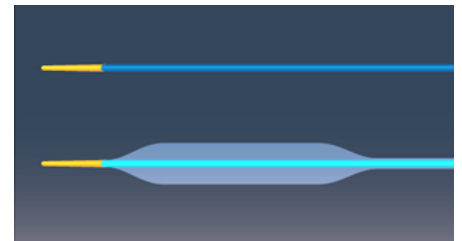
冠動脈疾患の治療の選択肢は、①薬物療法、②カテーテル治療、③冠動脈バイパス手術の3つがあります。どの①～③のどの治療を選択するかは、症状、冠動脈の状態などから、循環器科の医師が総合的に判断します。

【カテーテル治療】

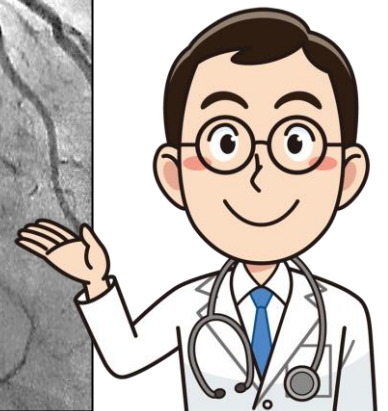
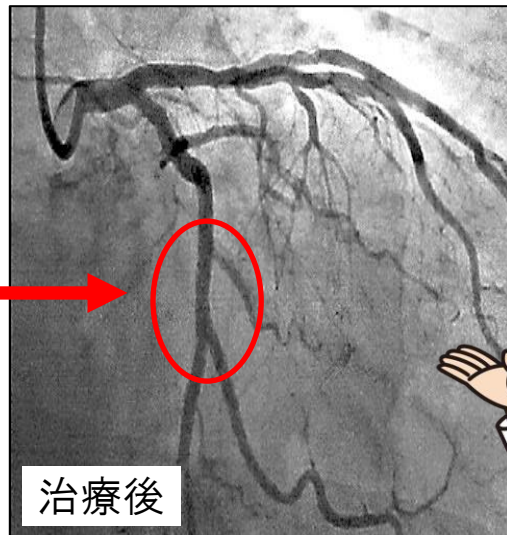
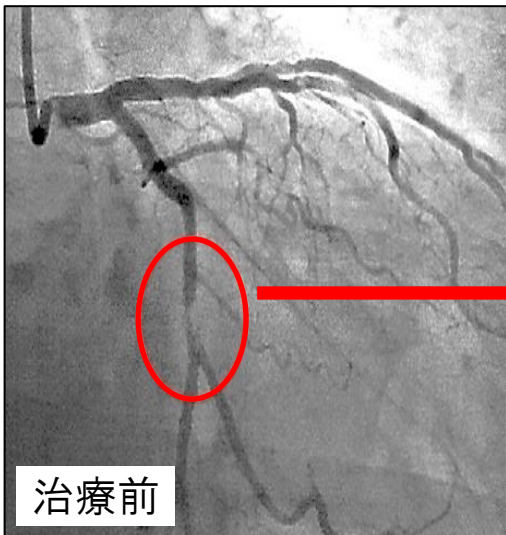
心臓カテーテル治療は、冠動脈疾患の代表的な治療方法となっています。足の付け根や腕の動脈から、カテーテルという管を挿入し、狭くなった冠動脈（下図：赤丸）を先端に風船のついた管（バルーンカテーテル）で拡げます。また、風船で拡げただけでは、時間とともにまた細くなる（再狭窄）可能性があるため、拡張した部位にステントグラフという金属の筒を留置します。



▲ 心臓CT検査画像



▲ バルーンカテーテル



当院では毎週火曜日、札幌心臓血管クリニックの循環器科医師が診察を行っています。歩くと胸が痛くなる…などの症状がある場合は、医師または看護師までご相談ください。

検査に関する疑問、質問などございましたら

お気軽に検査担当技師までお問い合わせください。